

公益社団法人地域医療振興協会  
横須賀市立うわまち病院

# リユースがもたらした 医療材料の安定供給確保とコスト削減

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2020年春、多くの医療機関が医療材料の安定確保に苦慮していた。そのような中、横須賀市立うわまち病院は一部の診療科の手術で、手術用ガウンと手術用ドレープをディスポーザブル（ディスポ）から「高機能ポリエステル素材」によるリユーズ（リユース）に切り替えることを立案、医療材料を安定的に確保するとともに、購入費用と医療廃棄物の削減で年間約800万円のコスト削減が可能という目標を設定し、運用を開始した。このリユース化の取り組みについて、病院長の沼田 裕一先生、看護師の鳴海 理智子さん、安東 友香さん、高實子 千晴さんに話をうかがった。



## リユース導入のきっかけ

沼田裕一先生は、地域医療を担う基幹病院として事業を継続的に運営するには、手術をはじめ日常診療に欠かせない医療材料の安定供給が大切と語る。「当院では、TQM（総合的な品質管理）のQC（部門ごとの品質管理）サークル活動を行っており、手術用のガウンおよびドレープのリユース化により、省資源とコスト削減につながったとの報告を受けていました。リユース導入は、コロナ禍で医療材料の安定供給が滞った場合のリスクヘッジと同時にコスト削減につながり、病院運営

に貢献できたと思います」と説明する。

当時手術室の看護師長として、リユース化を進めていた鳴海理智子さん（現整形外科棟看護師長）は、新型コロナウイルス感染症の流行以前から、材料費がかさむ手術部でのガウン・ドレープのリユース化によるコスト削減は課題となっていたと語る。さらに「新型コロナの感染拡大に伴い、使用していたディスポメーカーからガウンの供給について、2カ月分は確保できるがその先はわからないと言われました。コロナ禍で年間約3,000件あった手術は約600件も減少しましたが、そういった状況で毎日手術をしなけ

ればならず、不安でした」と当時を振り返る。

そのような時、リユースのメーカーとサプライヤーから、使用後は専用リネンバックへ投入し、専門スタッフが感染防止対策を講じて回収・洗浄・滅菌、納入する手術用リネンリユースシステム「コンベルパック®」導入の提案があった\*1。再利用可能な製品を繰り返し使用、安定供給できるというこのシステムによって経費がどの程度削減できるか試算したところ、マイナス1,000万円という数字が提示され、「かなり削減額が大きい」と感じたという。

## 「キット・ガウンのリユース化」のQCサークル活動

手術室でリユース化を進めている手術室看護師の高實子千晴さんは、看護師、医師とともに「ドレープ・ガウンのリユース化」をテーマにした院内QCサークル活動を2020年4月からスタートさせている。そして2019年度の手術件数を基に、2020年度も同じ件数でリユース化した場合の年間予想削減額を800万円に設定した。まずは手術件数の多い外科と整形外科から現在は形成外科、耳鼻咽喉科を含めた4診療科でハイブリッドシステム\*2（図1）を導入している。



図1 ハイブリッドシステム

## リユース化で 年間約800万円のコスト削減

こうした取り組みの結果、1年後にはキット・ガウンが347万円ダウン、感染性医療廃棄物の廃棄金額が460万円ダウンで、合計約800万円のコストが削減できたと高實子さんは語る（図2）。

手術室主任看護師の安東友香さんは、「リユース化によってガウン・ドレープを廃棄しなくなったことも大きいです。通常1回の手術で出ていた5～6個の感染性医療廃棄物のパックが2個程度まで減り、医療廃棄物を中央材料室に運ぶ負担も軽減されました。それに伴い、感染性医療廃棄物とそれ以外の医療廃棄物の分別が徹底できるようになりました」と、医療廃棄物の削減に対する意識の変化をあげる。

鳴海さんは「リユース化を阻む課題は、ディスポのように切ってサイズを加工することが容易にできないため、術式によってはドレープなどの調整が必要なことです。しかし、DPC対応病院として材料費が占める割合が高い手術部門でのコスト削減は欠かせません。看護サイドとして、医師に直接迷惑をかけることのないリユース化を提案しました」と、リユース化による病院経営上のメリットを強調する。

## リユース化は医療廃棄物削減への意識向上にも貢献

最後に、リユース化を検討している病院関係者に対して、3人の看護師よりメッ

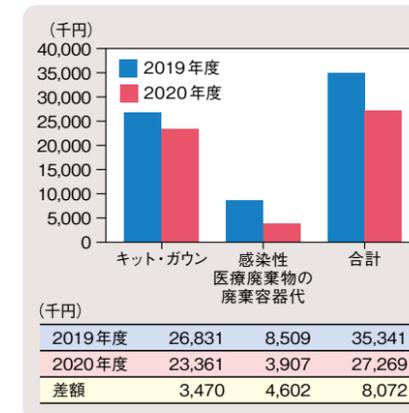


図2 リユース化で  
年間約800万円コスト削減

セージをいただいた。

鳴海さんは「医療廃棄物削減につながるリユースは地球環境にもやさしいので、SDGs（国連が定めた持続可能な開発目標）の観点からも良いと思います。一方で、導入にあたってはディスポとリユースの併用により運用に苦慮することもありました。しかし、コストと廃棄物の削減を考えると、実行の価値は大きいです」と医療廃棄物にかかるコストが削減し、



沼田 裕一先生【管理者／病院長】



①安東 友香さん【手術室 主任看護師】  
②鳴海 理智子さん【整形外科（前手術室）看護師長】  
③高實子 千晴さん【手術室 看護師】

## 公益社団法人 地域医療振興協会 横須賀市立うわまち病院

【所在地】神奈川県横須賀市上町2-36 【開設】2002年（国立横須賀病院から横須賀市に経営移譲。地域医療振興協会が管理運営）。県内9つの二次保健医療圏のうち「横須賀・三浦」圏の基幹病院の1つ。【管理者・病院長】沼田 裕一 【病床数】417床 急性期一般入院科1【診療科】28科 【経営理念】「私たちは、優しい心、深い知識、高い技術をもって安全に配慮した、良質な医療を提供し、地域社会に貢献します」【外部評価】良好な経営で2015年に自治体立優良病院総務大臣表彰受賞。2016年度DPC機能評価係数Ⅱランキング神奈川県内第3位 <https://www.jadecomhp-uwamachi.jp/>



\*1：手術用リネンリユースシステム「コンベルパック®」とは、手術で使用したガウンやドレープをリユースサプライヤーが回収し、洗浄・検査・滅菌を行って再度納入される仕組みである。使用される製品は撥水や防水性能を備えたバリア性の高い素材であり、SSIなどの感染対策にも考慮されていることが特徴である。

\*2：リユースとディスポの良いところを掛け合わせたハイブリッドシステム。ガーゼやシリンジなどディスポの消耗品パックとリユースリネンバックがセットになっている。

